

第74回 卒業証書授与式 式辞

二月は暖かい日があると思えば、その後すぐに雪が舞うなど正に三寒四温の季節だと感じましたが、二月下旬からは暖かい日が続いて、運動場脇の桜の木もつぼみが膨らみ、春の訪れを告げています。

本来であれば、愛西市長様はじめ多くのご来賓の皆様や在校生に見守られての卒業式となるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症対策ということで、規模を縮小しての卒業式となってしまったことを心苦しく思います。しかしながら、本日出席できなかった人も、この同じ空のもとで皆さんのが卒業をきっとお祝いしてくださっていることと思います。

まずは保護者の皆様、「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」という何気ない日常のあいさつを繰り返している間に、心も体も大きく成長し、新たな世界に巣立とうとしている頼もしい我が子の姿を目の当たりにされ、感無量のことと存じます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

さて、三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにお渡しした卒業証書は、中学校の課程を立派に修了した証であります。酷暑の夏も伊吹おろしが吹きすさぶ冬も、時には仲間とのいさかいに悩みくじけそうになりながらも、学習に部活動に頑張り抜き、今日その集大成とも言える日を迎えました。奇しくもこの学び舎で出会った仲間や先生と過ごした日々の、楽しかったことや辛かったことの全てが、今皆さんの中できらきらと輝いていることでしょう。振り返れば、私は皆さんとの付き合いは、休校期間もありわずか一年足らずでしたが、皆さんから多くの喜びを得ることができました。

その一つを紹介すれば学校祭です。今年は規模の縮小を余儀なくされ残念な思いもあったかと思いますが、その中でできることを考え、黒板アートや学年ごとの球技大会、学年レクなどオリジナルな種目を作ってくれました。正にピンチをチャンスに変えチャレンジした成果であり、皆さんのが仲間と楽しく過ごしている姿は、私の心のアルバムにしっかりと焼き付けられています。これまでの佐織中学校のすばらしい歴史に、後輩の手本となる新たな一ページを創り上げてくれたことに深く感謝しています。そんな皆さんへ卒業前に、はなむけとして一つお話をしたいと思い

ます。

皆さんにも尊敬する人がいるかと思いますが、私にも尊敬する人が何人かいります。父や母、先輩の先生方の他に、歴史上の人物では「吉田松陰」という人を尊敬しています。松陰は、現在の山口県萩で松下村塾を開き、数多くの生徒を教えていました。実際に教えていた期間は二年間ほどらしいのですが、松下村塾からは、奇兵隊を組織した高杉晋作、初代総理大臣の伊藤博文、三代目総理の山縣有朋など、明治維新の指導者となる人物がたくさん輩出されました。

吉田松陰という人は、当時、少し過激な思想の持ち主で、江戸時代においては反社会的な存在であったかと思われますが、激動の幕末において彼の熱い思いや考えは、多くの塾生の心を動かしました。そして、塾生たちが中心となって明治政府を樹立したのです。ゆえに、吉田松陰は、明治政府の陰の立て役者と言えるでしょう。

そんな吉田松陰の教えにはすばらしいものが多く、現在も引き継がれていますが、その中の一つに「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり」というものがあります。「至誠」とは「至る」に「ごんべんに成る」の「誠」と書き、「精一杯の誠意を尽くす」というような意味です。精一杯の誠意で相手に接すれば、それで心を動かされない人はいない。すなわち、人に動いてもらおうと思ったら、真心をもって精一杯の心で接しなさいということです。元々は中国の孟子の言葉からきているそうですが、松陰自身、その信念で人と接してきたと言われています。誠意をもって行動すれば必ず道は開かれる。言葉に行動が伴っていた松陰だからこそ、多くの塾生から尊敬されていたのでしょう。

私たちは、常に誠実でいようと努めても、ともすると仲間を遠ざけたり、真心をもって接しなかったりする場合があります。しかし、誰かと協力して何か仕事をしたり、人にお願いをしたりしたい時に、こちらが誠意をもって接しなければよい結果は得られません。これから皆さんが上の学校へ進んだり、就職したりする中では新しい仲間や先生との出会いがあることでしょう。その出会いを大切にして、人と真心をもって接すれば、それぞれのステージで大きな喜びや結果が生まれます。どうか、これからも誠意を尽くす人として生きてほしいと願っています。

ただ、これから進む道では、喜びばかりでなく、困難も必ず待ち受けていると

思います。大きな壁にぶつかり、前に進めなくなってしまう時もあるかもしれません。そんな時は無理に歩かなくてもいいのです。時には道端で一休みして、そしてまた元気になったら歩き出せばいいのです。皆さんにはこの佐織の、そして愛西市の大切な宝です。どうか自分を大切にして生きてください。

また、今皆さんが、こうして卒業の喜びを得られるのは、皆さんの努力もさることながら、皆さんを大切な宝として育ててくれた家族の人たち、温かく見守ってくださった地域の皆様、そして、いつも一緒に頑張ってきた友達や、優しく、時には厳しく指導してくださった先生方など、多くの人たちのお陰でもあります。これまで多くの人たちに支えられてきたことに感謝して、周りの人たちに「ありがとうございます」と言える人になってください。

それでは、百二名の卒業生の皆さん。未来へと続く道の新たなスタート地点に立ちました。力強く歩み始めてください。皆さんの限りない前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

令和三年三月三日

愛西市立佐織中学校長 伊藤 克仁